

「三つ色の提案」

ブルーの提案

東北大震災による被災のテレビ映像がまだ消えない頭で自分の住むまちをみるとき、どうしてもいざというときの安全が備わっているかに気が向きます。

三世同居で関東大震災や先の戦争の話を聞いていたわたしはまちの防災訓練には必ず参加してきました。しかしその都度「本当のいざと言うときにこんなことで大丈夫なのだろうか」という印象は消えませんでした。いざと言うときにこの道はこのように列をなして歩いていられるのか、車が駐車していたり、列をなしていたりすれば整然と人が前へ進めないばかりか、火災を起こした近隣の家からのもらい火で「火の道」と化してしまっているのではないかと心配します。

そこで、広域避難場所へ通じるメインの道路は普段から車の駐車を許さず、通行も制限しておき、いざというときの安全な避難路とできないだろうかと思うのです。その上両側にはヤマモモとかカシ、クスノキなどの常緑樹木を並べて植え、火災の影響が最小限になるような工夫が加えられないかと思えます。阪神大震災で常緑樹木がそれ以上の延焼を防いでいた例を聞かされたのを記憶しています。「普段から車が制限されている、広域避難場所へつながるみどりに覆われたメイン道路の復活」をぜひ願います。できる箇所から、段階的にでもいいですから、実現がめざされて欲しいと思います。

グリーンの提案

「閑静な高台の斜面で見晴らしのよいところ」というキャッチフレーズに惹かれてひな壇型の住宅街に引っ越しました。ひな壇の下にはバス道路があり交通にも便利でした。

ところが住み慣れて十年ほど経つと住宅街の曲がった道をミニバスが通ることになりました。丘の向こう側の、昔から不便とされていた住宅街からの要請によるバスの通行でした。

「向こうの住宅街へ通じる交通路は昔から別にある」とわたしたちは主張し、ルート変更を役所へお願いしましたが「自治会長には説明済み、ルートについてはバス会社で社内決定されている」と言われました。運行の許認可権をもっている国へもお願いに行きましたが、評判をとったK首相の時代以来規制緩和による民活が優先すると言われ、反対住民がいても違法でない限り許認可せざるを得ないと言われました。

「こんなはずではなかった」という思いがわたしたちの間に広がりました。坂道を登るバスは静寂を破り、高齢者や子どもの歩行に危険が増すほか、車庫からの車の出し入れにも危険が伴うようになります。庭や家の中がのぞかれ、窓を開け放つ夏には騒音でテレビの音が聞こえなくなります。自治会長に問いただすと「聞いただけ」と答えますが、以前から新住民の方へはあまり耳を傾けてくれませんでした。

そこで、新しいまちには当初の魅力を維持させるために住民協定をあらかじめ定めておくことが必要に思いました。「住民協定でもあれば」という声はバス会社からも役所からも言われました。「住宅街道路について定期的な大型車の運行には住宅街住民による協議があらかじめ必要」とするものです。みんなで署名押印し、それを自治会や役所に届けておくのがよいと思います。

開発の業者の方が、売り出しのキャッチフレーズに言うところの良好な住環境を末永く維持させる保証のような意味合いで、作成にひとはだ脱ぐようなこともあっていいように思いました。

オレンジの提案

前ふたつの提案の達成による「閑静と見晴らしが魅力の住宅街。いざと言うときに安心で大型車の定期交通を増やさない快適住環境の住宅街」では、まちづくりに欲張りなわたしにはまだ不足です。「香り」が欲しいと思います。「香るまち」がキーワードです。

と言っても香りは長く住んでいてつくられていくものでもありますが、あらかじめ心をひとつにしてやれるものでもあると思います。まちが香りを放つためには「あいさつ」や「対話」も必要でしょう。「道路や側溝の日頃の掃除」も必要でしょう。「敷地をブロック塀で囲わない」ことも必要でしょうし、「派手な商業看板を取り付けさせない」ことも必要に思います。

しかし住宅街を散策していて、なんとなく除ける庭からよく手入れされた植木や彩り豊かな草花が見られるというのも悪くはない光景と思います。言ってみれば、プライバシーは守られながらある程度可視化されているという住宅街が理想でということになります。

そこで、わたしが望んでいる香るまちづくりの象徴として、象徴木というものを最初から各敷地の庭に植えるようにしてはどうかと思います。植えられる位置は道路側の目立つところに、です。樹種としては花が楽しめ、香りがあって、あまり枝が張らない樹木がよいと思います。開発にあたった業者の方からのプレゼントという形にしてもよいと思います。実現すれば業者の方へのイメージもアップすることでしょう。

樹種の決定は各地方、各地域によって伝統や好みのほか植生によって違いが生じてくるように思えますが、神奈川なら「キンモクセイの香るまち」などが素敵だと思います。春には新芽を出し、秋には花をつけ、香りを放つことによって、住民の会話のきっかけをつくり、住んでいてよかったという思いをきっと増やすことだろうと思います。

福岡ですとどんな樹種になるのでしょうか。「調べて、話し合っ、決めて、説明して、植える」それだけで人間関係が香ってくるのが目に見えます。住民はそれを大事に育てながら、新しいまちの香りとして楽しみながらそこで長く快適に暮らすのです。

ブルー、グリーン、オレンジの三つの色のハーモニーの中に、望むまちづくりが明るく実現されてゆくことを祈っています。